



# 高崎高校同窓会報

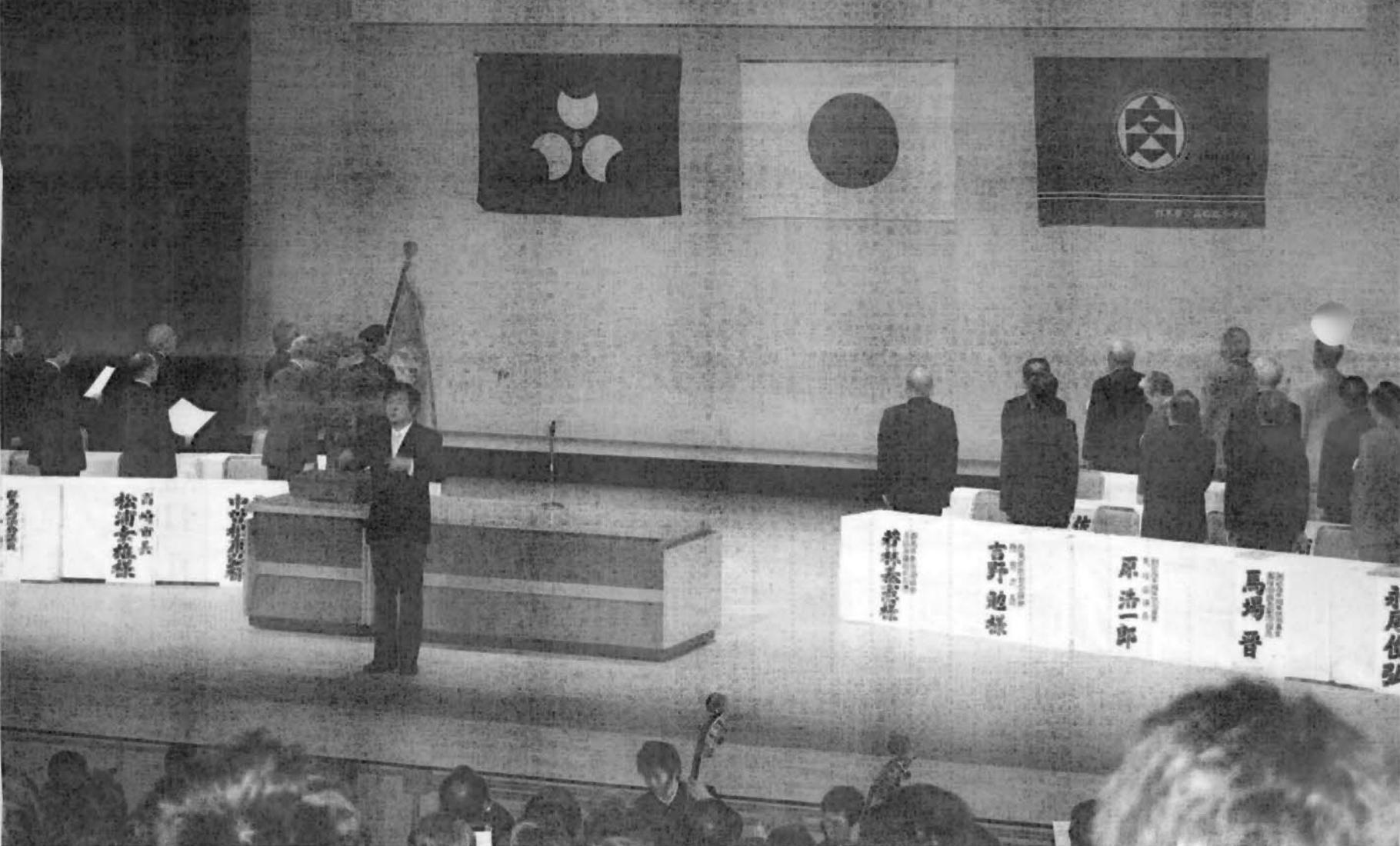
2007

第41号

平成19年11月30日

## 特集 / 110周年記念式典

祝 群馬県立高崎高等学校創立110周年記念式典



GRAPH FILE



敵地での勝利で、2連勝を喜ぶ実行委員



新たに競技種目となった一般対抗「長縄とび」

高高同窓会報 No.41 目次

あいさつ

ごあいさつ ..... 同窓会会長 原浩一郎 3

ごあいさつ ..... 学校長 藤倉新一 4

高高生に期待する ..... 同窓会副会長 長坂 資夫 4

特別寄稿

追想 雑記 ..... 38期 重田 精一 5

翠管の影にセルリアンブルーの声は流れた ..... 68期 正木 高 6

木造校舎中三階の部屋 ..... 78期 新井 重雄 7

論壇

年功序列も捨てたものではない ..... 58期 布谷 龍司 8・9

特集

● 創立110周年記念式典 ..... 10

同窓会だより

高高五六会 ..... 56期 生方 将夫 12

藤岡翠管会が誕生しました ..... 65期 梅澤 徹 13

同窓会本部から ..... 14

● 卒業生の作品紹介(2) ..... 58期 大木 紀元 15

● 翠管文庫 ..... 15

● 表彰・叙勲者紹介 ..... 15

母校だより

各部の活躍・活動 ..... 16・17

第61回定期戦 ..... 18

最近の進学状況 ..... 19

人事異動 ..... 19

同窓会会計報告、新年総会案内、編集後記 ..... 20



いよいよ

同窓会会長 原 浩一郎

県内でも初雪の便りが聞かれ、日ごとに寒さも厳しくなってきましたが、母校の指月庭では、薔薇が凛とした姿で数輪の花を開かせています。寒さにも負けぬその姿に、風吹きすさぶなか、澗刺として文武両道に励む現役生の姿が重ね合わせられ、一人のOBとして、身の引き締まる思いがいたしました。

同窓の諸兄におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。様々な機会に、各界、各方面における同窓生の活躍を見聞するにつけ、同窓会といたしましたしても、誠に心強く、ご同慶の至りであります。今後も、ご健康にはくれぐれも留意されて、益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。

本同窓会の活動におきまして、皆様より、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに、紙面をお借りして感謝申し上げます。

さて、母校高崎高校は、本年創立110周年を迎えたわけですが、去る5月20日、群馬音楽センターにおいて、記念式典および記念講演会を滞りなく開催いたしました。

当日は、中曽根大先輩をはじめ、多くのご来賓の方々をお迎えし、生徒、保護者、教職員の皆様とともに、厳粛ななかにも盛大に式典を挙行することができました。実行委員会の発足以降、皆様のご支援、ご協力を賜ってまいりましたが、かように盛大な記念式典を挙行できましたことも、ひとえに皆様のご厚情によるものと、改めて感謝申し上げます。

式典に先立って開催された記念講演会では、「国家の品格」の著者である藤原正彦先生を講師にお招きし、「情緒力」の重要性についてご講演をいただきました。

式典では、在校生を代表して生徒会長による「宣誓」が述べられましたが、その力強い言葉を聞き、薔薇の香匂う母校、高崎高校で学んだ経験はきっと先生のおっしゃる「情緒力」の涵養にもつながるものと思われました。

県内では、高校入試における学区制が廃止され全県一区となり、日本国内でも教育基本法が改正されるなど、母校高崎高校を取り巻く状況は大きく変化しております。しかし、高崎高校には、今

年55回を教え毎年開催されている翠巒祭や、61回を迎えた今年、十数年ぶりに連勝を果たした定期戦などといった行事をはじめ、「文武両道」の伝統のもと、この110年の歴史の中で培われた決して変わることはない気風があると思います。

「不易流行」という言葉がありますが、多様に変化していく社会のなかで、変わらぬ伝統を受け継いで、日々学業、部活動に励む後輩たちが、将来、指月庭に咲く凛とした薔薇のように有為な人材となり、社会の各方面にて活躍し、高崎高校が益々発展することを期待してやみません。そのためにも、本同窓会はその活動をより一層充実したものと、母校の発展のために惜しみない支援を行なってまいりたいと考えております。会員の皆様におかれましても、本同窓会の活動に対しまして、倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(原)代表取締役会長

ぐんべい代表取締役会長 56期



いじま まさる

学校長 藤倉 新一

はじめに、同窓会報第41号の発刊を心からお喜び申し上げます。

私も校長職としての母校着任以来約半年が過ぎたところでありますが、この間、5月には創立110周年記念式典等が実施されるなど戸惑うことしきりの中、原同窓会長をはじめとする実行委員会の方々や栗原前校長の周到な準備と、当日ご参加いただいた多くの同窓生をはじめとする関係者の皆様のおかげをもちまして、講演会、式典ともども盛大かつ厳粛に執り行うことができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

同窓会の皆様方には生徒の教育活動に對しまして様々な面でご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。生徒達は学習に部活動に思う存分力を発揮しているところであり、中々でも平成17年度からスタートしたHS（ヒューマンサイエンス）は順調に推移し3年目を迎えております。今夏もボストンでの語学研修を実施するなど大いに意気が上がっているところであります。来春はいよいよHS一期生が卒業となります。本校での学習を礎としてそれぞれの夢の実現に向かって進み、いずれは国を背負って立つ存在に成長してくれば、ご支援いただいている同窓会等への恩返しになるものと思っております。

さて、先日9月29日には第61回定期職

が行われました。今年はアウェイの年に当たり前橋高校での開催でしたが、生徒達は「敵地では勝てない」という10数年のジンクスを破るべく日々休み時間を返上しながら練習を積み重ね、結果91対89という僅差ではありますが見事勝利を手にすることができました。

まさに還暦を越える永年のライバル決戦にふさわしい白熱した戦いが繰り広げられたわけですが、生徒達にとつて、この勝利は大きな自信につながるものと思っております。特に3年生にとつてはそれぞれの進路を決定づける冬の陣もすぐそこに待っています。この定期戦で見せた粘りと頑張りをもって、来春も大いに気を吐いてくれるものと期待しています。

終わりに、今後とも高高の更なる発展のため、微力ではありますが最善を尽くしていく所存ですので、旧に倍するご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。いさつといたします。



高生に期待する

同窓会副会長 長坂 資夫

平成18年の同窓会新年総会において副会長の重責を仰せつかりました。未だ、まごついている始末ですが、微力ながら母校のために働かせて頂く所存です。宜しくお願い致します。

私は現在、高崎市医師会の副会長という任にある関係上、行政と医師会、並びに政治（医療政策）と医療現場との接点を埋める役割を負っています。その様な中、最近の政策は、その向かう方向性が迷走しており、強い義憤を感じざるを得ません。

本来、人として全力でその知識と技術を投じ、総ての職業において、それぞれの使命に基づいた行動をとることが普遍的な道であると思いますが、現場では、「安全・安心」という言葉に対する防御反応を準備するために疲弊し、本来の使命に向かう心構えは、些か、蔑ろにされつつあることが危惧されます。この風潮は、経済財政諮問会議ができた後、大きく舵取りが変換された結果であると考えます。

小泉政権の「改革」における中心的課題は、市場原理を総ての政策に取り入れる聖域無き構造改革であると要約でき、この市場化の特徴は、自由競争の下で私的利潤の極大化を活動の原動力とし、生産の効率化を達成する点にあるため、独

占や寡占が生まれ、格差の問題が取り沙汰されています。

一方、人間生活の福祉からの逸脱が進み、これに気付かず、その風潮に乗り遅れまいとする中で、逆に多くの不安を助長してしまっています。

物理学者ガリレイの主張した地動説における慣性系では無いが、市場原理という慣性系の中に埋没してしまうことで、真理が見えなくなっているかの如き事象が世間に溢れています。

医療の現場に限っても、昨今の医学生は聡明で賢い学生が多くなり、入学時から研究目的や診療に關する多くの情報を駆使し、上手に進路を決定するよう指導されています。更に、入学後に要求される知識の膨大さは、かつてとは比べ物にならない量に膨らみ、適当に処理できる能力を身につけた学生が、卒業して医師になつて行く現実を見ると、危険でかつ過酷な業務に就く医師は益々少なくなつて行くことが想定されます。

しかし、真の勝利を納める者は、愚直でも、王道を歩むことの出来る実力と勇氣を備えた、まさしく高高が目指してきた、伝統により培われた精神を引き継ぐ者であると信じています。

(希望館病院理事長 70期)



特別寄稿

# 追想 雑記

重田 精一



昭和9年(1934)4月、私どもは群馬県立高崎中学校に入学、上和田台上の学舎は、桜花らんまんたる頃で希望にもえていた。

当時の控所は、1年生のとなりが4年生の席であり、現在の中学1年生と高校2年生が、ならんでいるわけであり、4年生から常に叱られ、こわい存在であった。この4年生のクラスに、中曾根康弘大先輩(元総理)がおられたわけである。

この年の11月には、陸軍特別大演習が群馬県を中心に行われ、4年生5年生は参加3年生以下は見学であり、乗附緑兵場において4年生5年生は天皇陛下のご親臨を拝受した。

また、教職員が4月以降制服を着用することとなり、絹毛交織地の制服制帽であり、陸軍特別大演習を控え教員の服装統一を計ったものといわれ、入学したら一見海軍の軍装のように教師の姿に驚いた。

昭和13年3月グライダー部(滑空部)が誕生している。20数名の部員が参加、真剣に訓練につとめており、中川校長命名の「榛名」というグライダーをもち乗附練習

場内格納庫におさめていた。地上

滑走から高度1メートルジャンプ次第に精度をあげ、10月の運動会で公開訓練を行うこととしたが現在の高崎市立第一中学校の校庭より狭い場所である。不幸にして校庭の肋木に衝突してしまった。この事故にもめげずその後の進歩は著しく年末には高度10メートルに旋回滑空可能とまでとなっていた。

本校の移転問題は、昭和9年頃から話題となっており、土地に関しての紆余曲折を経て、昭和12年現在の乗附の地に決定した。

乗附新校舎への移転は、昭和13年12月25日新校舎竣工、移転完了は27日、翌28日、明治31年以来40年に亘る上和田台上の学舎から現在の乗附の学舎へ移転、翌昭和14年1月から新しい学校生活が始まった。

この移転については、机や椅子を肩に担って、上和田校舎から木枯吹きすさぶなか八千代橋を渡り烏川原を横切り運んだ。故小山禰一元同窓会長は(当時1年生)移転したのは夏ではなかったのかと、私に語ったことがある。かなり真剣に汗を一杯かいた印象が強かったのではないだろうか。

私たちのクラス会は第38回卒業

にちなみ三八会という、昭和20年終戦後には45名の仲間を戦死戦病死で失っている、一クラス相当分の仲間であり痛恨の極みであった。時うつり半世紀を経て昭和64年

昭和の終焉平成の世となった折、移転後50年を経過しており当時の在校生(38回から42回)の有志相集い、応援歌翠巒歌碑の建立を計り、作詞作曲の村田鎮虎先輩の原文に沿った文言を刻した碑を、生徒昇降口に近く設置した。

ついで高崎高校創立100周年事業において上和田台上の旧校舎のあった高崎市立第一中学校に翠巒歌碑を設置碑面には当時の歌詞「名も高崎の西方に獅子とうそぶく高校の」と刻してある。

母校、また同窓会のご繁栄を祈念いたしております。

(重田医院院長 38期)



特別寄稿

# 翠巒の影にセルリアンブルーの声は流れた

正木 高

それは、平成15年の8月、お盆休みの土曜日に始まった。

高々合唱部の1年後輩杉浦幸男君から連絡が入った。土曜日に久しぶりに仲間が集まるとのことだった。行ってみると、すでに皆が大いに盛り上がりつつあり、飲みや歌えの大騒ぎとなっていた。昔話に花が咲くうちに、定期演奏会の話になった。実はこの20年程、高々合唱部は冬眠状態となっており、全く活動していなかった。しかしながら5、6年前より、現役が新たに合唱部を復活し、少しづつ、活動を広げて実績を積み重ねてきていた。

この新しい芽を育て、大樹としてゆくためにも、昔は毎年行っていた演奏会を新合唱部と共にやってみようということになった。

アルコールの勢いも手伝ってあれよあれよと言ううちに、話は本決まりとなり、みるみる現実味を帯びてきた。「酒のうえの話だから、次の日にはほとんど忘れてしまっている。」というには、皆酒が強すぎた。次の日から、1年後のお盆休みの土曜日と日にちだけは決めてしまった演奏会に向けて動き出していた。

9月中にはOB会の連絡網が出来上がって、練習も始まった。なかなか練習に参加出来ないでいるうちに、あつという間に1年が過ぎてしまっ

ていた。

さすがに6月ともなると、演奏曲目もすっかりと決まり、練習に参加する人数も増えた。我々の永遠の指導者塚田佳男さんも練習をして下さった。35年ぶりに塚田さんの指揮で歌った合唱は、我ながら涙が出るほど嬉しく感動的だった。男性合唱はやっぱりすばらしい、と再認識させられた。

この感動を引きずったまま、平成16年8月14日いよいよ当日となった。朝からリハーサルを繰り返して、昼からの演奏会に向かっていやがおうでもテンションは高まっていた。

そして幕は上がった。高女OG、高々合唱部の関係者で満員の客席に向かって、20数年ぶりに高々合唱部の歌声が流れた。各パート10数人づつ、総勢50名以上という大合唱団の第一声は「歌えいざ若人」であった。続いて我々が「高崎高校校歌」「いざたて職人よ」合唱組曲「柳河風俗詩」次々とつかしい歌をすばらしいハーモニーの中で、感動と幸福感に包まれて、おもいきり歌うことができた。最近このように五感全てが心地よい至福の時とも言える環境に身を置くことがあったろうか、と思いつつ、演奏会は終章となっていた。最も思い出深い「詩編」合唱組曲「雨」と歌い終わったときには、

どうだ、俺たちはまだこれだけすばらしい歌が歌えるぞ、という誇らしい気持ちさえ持った程だった。実際、学生の頃の声質は皆落ちてきていても、この2、30年の経験はしっかりと各曲の曲相に生きていて、「だてに歳をとっていないぞ」という、どこに出しても恥ずかしくない出来（ちよつと誉め過ぎかな）となっていた……と信じた。

又、この演奏会には同じトップテナリーのパートで次男と一緒に参加していた。斜め前で歌う息子の存在は、うれしいような自分の年を実感させられ、さびしいような複雑な喜びを与えてくれていた。

演奏会終了後、歌った側も聞いた側も皆で一緒に行った打ち上げで歌われた歌は、やはり「翠巒」であった。これは、平成16年の「会員だより」という高崎市医師会の会員向けに発行されている小冊子に載せた文章を手直したものです。

高々合唱部の近況と、つながりの強さ、まだまだ衰えない活力が少しでも感じていただければ幸いです。尚、平成18年度より翠巒体育会の高橋浩生会長の御配慮により、高々合唱部は翠巒体育会ゴルフ大会にもテストケースとして参加しております。

（正木整形外科医院院長68期）



特別寄稿

# 木造校舎中室 三階の部室

新井 重雄

高高に入学すると、上には上が  
いるものだと、自らの非才を思い  
知らされる。学業はもとより、ス  
ポーツ、悟りを得たような人格者  
一芸を極める奇人など、級友  
や先輩たちの才能と個性は「これ  
が高高かあ」と実感させた。地元  
の中学時代に評判の秀才だった者  
どもは、この洗礼がトラウマとな  
り、ときに先生たちも愛情たつぷ  
りに、この傷に塩をすり込んでく  
れるのだ。

しかし勉強がトップの者にもピ  
リの者にも、全ての高高生にあま  
ねく平等に与えられるものが一つ  
ある。高高精神である。翠辮を歌  
う者には何の序列もなく、厳密に  
言えば応援団は別格かもしれない  
が、誰もがみな「俺こそが高高的  
のだ」と胸を張って声高らかに高  
高精神を鼓舞する。翠辮という科  
目があれば、全員が首席で卒業し  
ただろう。

高高的の入学試験日、私が受験し  
た教室の廊下から、木造の旧校舎  
が見えた。中三階の小部屋の窓に  
「弁論部」と赤いペンキで書かれ  
ているのが目に入った。試験の休  
憩のたびに、私は、ずっとその赤  
い文字を見ていた。入学し、最初  
の翠辮祭も終わったある日、私は  
どうしても気になって、その弁論

部の小部屋をのぞきに行った。3  
人ほどの3年生が中にいた。学生  
服ではなくジーンズ姿で長髪の3  
年生達は、チェリオと栗まんをご  
ちそうしてくれた。私は弁論部に  
入った。私の人生で大切な先輩や  
仲間たちを得たのも、この部室だ  
った。入試の日、廊下の窓から弁  
論部の赤い文字を見ていなければ  
と思えるほど、私に大きな影響を  
与えた部室だった。

78期は、風吹きすさぶ木造校舎  
で学んだ最後の学年だ。教室の掃  
除など学期に一度やったかやらな  
いかで、いつ替えたのかわからな  
い真っ黒な水が、教室か廊下の隅  
のバケツにかすかな異臭をドロっ  
と放っていた。4月の初日、授業  
が終わり席順で日直となった阿久  
澤憲司君と私が担任の坂田英明先  
生に、帰宅していいか聞きに行く  
と、「そんなことをいちいち聞き  
に来なくていい」と言われ、高高  
とはそういうところなのだ、二  
人で至極納得した。大学受験は共  
通一次試験の初年度となり、国立  
大学一二期校二期校が廃止された。  
大きく変わる試験制度に久保先生  
が熱心に対策指導をしてくれた。  
岸清先生など先生方の思い出を記  
すときりがなが、先生と生徒と  
の関係は、旧制時代から時間が止

まっているかのような気さえした。  
世界史で飯野先生が、普段はあま  
り余談はしないのに最後の授業で  
何故歴史を学ぶのか話してくれた。  
その時、私は高高で学べてよかつ  
たなあとしみじみ感じた記憶があ  
る。数学にしる英語にしる、また  
弁論部という場もあり、私は高高  
で思考する面白さを知った。

かと言って、まじめに授業を受  
けていたわけではなく、3年とも  
なると「次の授業だるいなあ」と  
言つてさぼり、部室やまちななかで  
時間をつぶしている生徒も少な  
からずいた。高女、市女がまちなか  
にあり、高崎駅へ南下する彼女ら  
と、北上する高高生が交差する輔  
町の学陽書房と喫茶店あすなろの  
前は、ずいぶんな喧嘩だった。

78期は間もなく同窓会幹事年を  
迎えるが、同期では高橋浩生君が  
翠辮体育会長として献身しており、  
高橋君を柱の一つに期の結束も固  
い。それぞれ社会的な立場を持つ  
年齢になったが、顔を合わせた瞬  
間、我々はいつまでも級友のまま  
であり、そして新たな友情のスク  
ラムに熱く肩を組んでいる。

(高崎市民新聞社)

代表取締役 78期)

# 論壇 年功序列も 捨てたものではない

布谷 龍司



は別にして、領域口が存在すること  
は間違いない。

一方、企業会計を考えた時、領域  
口のような（一見無駄に見える）人  
件費の増分があっても、経営が成り  
立っているという事は、逆に、企  
業にとって領域口のような利得があ  
って、しかもΣロ・Σイの関係が成  
り立っていると考えるのが自然であ  
ろう。おそらく、年功序列賃金体  
系下で働いている若年層にも、自分  
の働きほどは賃金を得ていないと実  
感している人も多いと思う。

①ある年齢以下では、労働価値見  
合いの賃金が会社から支給されない。  
（差額は、会社が預かっていると考  
える。）

②ある年齢以上になると、労働価  
値見合い以上の賃金が会社から支給  
されるが、その増分は若いうちに会  
社に預けたものを返してもらって  
いるという位置づけになる。従って、  
この点に関しては、程度問題もある  
が、高齢者が労働価値以上の賃金を  
得るのは、当然の権利でもある。こ  
れに対して、ある時点での労働価値  
と賃金とを見て、高齢者が「ろくに  
働かないのに高給を取っている。」  
さらには「月給泥棒」などの暴言を  
吐く者もいるが、これは上記のよう  
な考え方から、間違いである。

③定年退職日は、退職金の支給等  
も含めて、社員と会社との精算日で  
ある。

すなわち、お互いの貸し借りがチ  
ヤラになる日である。従って、定年  
後も再雇用、または再就職となれば、  
社員と会社とは新たな雇用契約を結  
ぶことになるが、一般的には、雇用  
期間が短いこともあって、常時精算  
型賃金体系（曲線B）とすることが  
多いと思われる。その場合、図に見

とも言われている。

これに対して、常時精算型賃金体  
系がある。（これについては、類似  
の用語として、労働価値見合賃金体  
系、成果主義賃金体系、業績連動型  
賃金体系などが使われることもある。）

これら二つの異なる賃金体系の、  
支給される賃金と勤続年数の関係を、  
文末の図に示す。

図では、年功序列賃金体系を曲線  
Aで示し、常時精算型賃金体系を曲  
線Bで示す。図に示すように、年功  
序列賃金体系では、比較的・若い時  
は労働価値に見合った賃金が支給さ  
れず、逆にある年齢以上では、労働  
価値以上に賃金が支給される。

その結果、曲線Aと曲線Bとの間  
に、BVAの領域Iと、AVBの領  
域IIが生ずる。年功序列賃金体系で  
は、高齢者が、働き度に比べて高い  
賃金をもらっているということがよ  
く言われているように、数字の大小

雇用形態が多様化していく中で、  
長年にわたりわが国の各企業で採用  
されてきた「年功序列賃金体系」が、  
なにかと批判的になってきているとい  
うか、批判することが一種の流行の  
ようになってきている。

小生自身について言えば、昭和41  
年に大学院卒業後、当時の電電公社  
に入社して以来、一貫して年功序列  
賃金体系のもとでサラリーマン生活  
をおくってきたっており、その間、特に  
矛盾も感じなかったこともあって、  
昨今の社会の風潮には、必ずしも賛  
同しかねるころである。

そこで、本稿では、あらためて年  
功序列賃金体系について、他の体系  
との比較で整理し再評価しようとし  
てみたもので、見方を変えれば、自分  
の人生に納得するための一種のメモ  
のようなものもある。

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

## 年功序列賃金体系の特徴

ここで、曲線B・常時精算型賃金  
体系との比較で、年功序列賃金体系  
の特徴を整理してみると、次のよう  
になる。即ち、年功序列賃金体系で

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

年功序列賃金体系は、後に述べる  
ように、賃金（の一部）後払い方式

られるよつに、仮に今までと同じ仕事に従事するにしても今までの賃金に比べて、かなり下がることになる。

これに対して、「今までと同じ仕事を同じようにしているのに、賃金

が下がるのはおかしい。」とか、自分の部下よ②り賃金が低いのは面白くない。」ということ

で勤労意欲を喪失する高齢者も多いようであるが、これも間違った考え方である。

このように人々には、賃金体系の違いをよく説明し、双方良く理解しあうことが必要である。

今後、いろいろな意味から、高齢者の雇用が促進されることになると思うが、そういう人たちの戦力強化や満足感のためにも、こここのところは大事なところである。

### 年功序列賃金体系の長所

先に述べた特徴から、年功序列賃金体系には、下記のような合理的なメンがあるように思う。

①途中で退職した場合、会社に預けたものを全額返してもらえないことになり、社員としては大きな損出となる。

畢竟、定年まで働きたいという意欲が生じ、社員の定着率が高まり、忠誠心が増す。また、このことによつて、技術の蓄積や継承がしやすくなると同時に、会社のノウハウ流出を防ぐことにもなる。

②また、現実は会社に預けたものをそのまま返してもらえないわけではなく、努力して高い評価をもらった

り、ランクが上がれば、給料が上が

り、結果として会社に預けたものよりも多く受け取ることができ

るので、競争心・向上心が湧くなど人事政策上の効果も生ずる。

③わが国の場合、どうしても子供の教育問題や老後の心配がついてまわるが、年功序列賃金体系は若い時には賃金が低い分節約せざるを得ず、

高齢になって、子供の教育費や住居費、老後に備える貯蓄などなにかと

出費がかさむ頃になって高い賃金となる仕組みなので、その点でも合理的である。

④上記のように、本来なら各個人が計画的に行うべきことを仕組みとして会社がやってくれるので、生活

の安定感が増し、落ち着いて業務や研究に従事することができ、また、

長期的な視野に立った政策にも取り

組む意欲が湧く。(逆に、常時精算型賃金の場合、在任中の業績評価に

直結する、短期的に成果が出ることに注力しがちで、長期的な視野にた

った政策・業務に取り組む意欲が減退しやすい欠点がある。)

### 年功序列賃金の短所

一方、年功序列賃金体系では、若いうちには働き度に見合った賃金が支払われないことから、下記のような問題も生ずる。

①日常の報われない感じや、他の常時精算型賃金体系の会社の社員との・比較などから、労働意欲を減退

させ、若年層の生産性低下を招く恐れがある。

②若い時の自己研鑽や住宅購入資金などの自己投資に回す余力が少なく、特に、自己研鑽資金不足は、若

年層の成長を妨げる可能性がある。

上記は、年功序列賃金体系を中心

に整理したものであるが、各体系それぞれ一長一短あり、業種業態や会

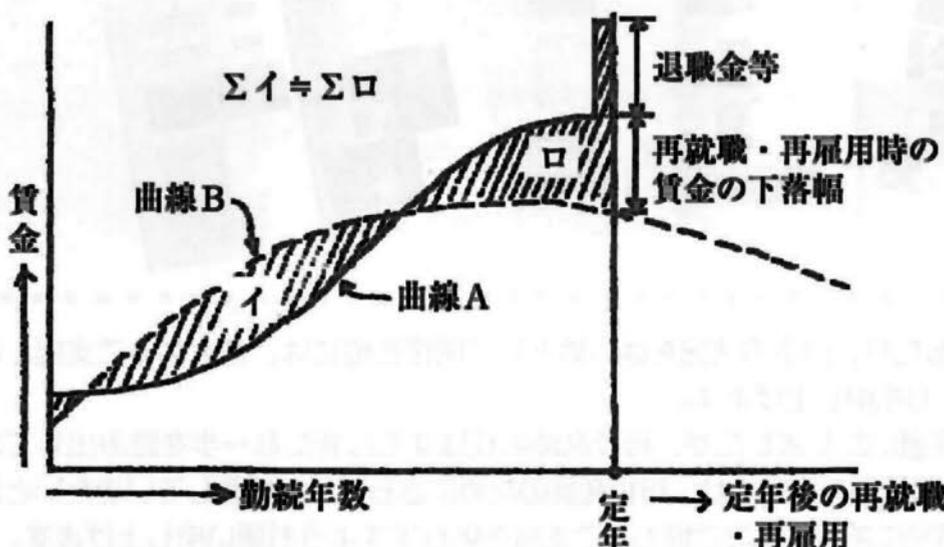
社の考え方で最適と思われる体系を採れば良いし、現実には、折衷的な

体系を取っている企業が増えている

ようである。問題は、それぞれの特徴・持ち味を認識しないまま、例えば年功序列賃金体系の批判などが、社会的風潮としてなされていることであろう。

(株)NTTファシリティーズ

相談役 58期



アトラクション



記念講演会と記念式典の間の休憩時間を利用して、群馬県選抜の高校生による和太鼓演奏が行なわれた。このチームは本校の和太鼓部が中心となって編成されており、文化交流の一環として韓国へも派遣されて演奏を行なった。本校和太鼓部は、一昨年に発足したばかりだが、



今年行なわれた群馬県高等学校総合文化祭（郷土芸能部門）で最優秀賞に輝き、来年本県で開催される「第32回全国高等学校総合文化祭（ぐんま総文）」に県の代表として参加する実力を持つ部活動である。

110周年記念誌「翠巒」

今回の110周年にあわせ、記念誌「翠巒 - 目で見える高中・高高110年の歩み -」が刊行された。現在、高崎高校に勤務する同窓生が編集に携わり、母校の110年の歴史をまとめたものである。創立から100周年までを第1部、100周年から110周年までを第2部とした2部構成で、100周年以降10年の歴史をダイジェストにまとめてある。ここでは記念誌「翠巒」より、この10年間のトピックスを紹介させていただく。



- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 平成10年度(1998年4月～1999年3月) | 百年誌人物編「翠巒の群像」が上毛出版文化賞を受賞                |
| 平成11年度(1999年4月～2000年3月) | 県高校総体でバスケットボール部が2年ぶりに王座奪回<br>インターハイにも出場 |
| 平成12年度(2000年4月～2001年3月) | 旧理科棟の解体 新理科棟の建設                         |
| 平成13年度(2001年4月～2002年3月) | 指月底の復興ーバラの香匂う学舎の復活ー                     |
| 平成14年度(2002年4月～2003年3月) | 文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定          |
| 平成15年度(2003年4月～2004年3月) | 2学年において「企業・研究所・大学訪問研修」が始まる              |
| 平成16年度(2004年4月～2005年3月) | SSH生徒、NASAへ海外研修に                        |
| 平成17年度(2005年4月～2006年3月) | 文科系のHS(ヒューマンサイエンスクラス)を設置                |
| 平成18年度(2006年4月～2007年3月) | 高前定期戦 第60回大会開催                          |



110周年記念式典を挙げるにあたり、同窓の諸兄をはじめとして関係各位には、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを、あらためてお礼申し上げます。

式典の開催より、すでに半年が経過いたしました。母校高崎高校はすでに新たな一歩を踏み出しております。本同窓会は今まで以上に本会の活動を充実させ、母校発展のためにさらなる支援をしていきたいと思っておりますので、今後とも同窓の諸兄にますますのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 周年記念式典

## 特集

# 創立110周年

平成19年5月20日、群馬音楽センターにて、「高崎高校創立110周年記念式典」ならびに「記念講演会」が  
 挙行されました。当日は群馬県議会、教育委員会をはじめ多くの来賓を賜り、同窓の諸兄にもたくさんのご出  
 席をいただき、高崎高校PTA、教職員、在校生とともに母校の創立110周年をお祝いすることができました。  
 ここでは、当日の様子を振り返り、あらためて母校高崎高校の110年の歴史に思いをほせてみたいと思います。



### 記念式典次第

司会：全日制教頭 増田 芳之  
 通信制教頭 田村 浩一

実行委員会副委員長 馬場 晋

- 1.開式の辞
- 2.国歌斉唱
- 3.校歌斉唱
- 4.物故者慰霊黙禱
- 5.校長式辞
- 6.挨拶

藤倉 新一



挨拶を述べる原会長

- (1)群馬県教育委員会委員長職務代行者
- (2)創立110周年記念事業実行委員長

若林 泰憲  
 原 浩一郎



中曽根元内閣総理大臣による祝辞

### 7.来賓祝辞

- (1)同窓生代表
- (2)高崎市長
- (3)同窓県議会議員代表

元内閣総理大臣 中曽根康弘 様  
 松浦 幸雄 様  
 岩井 均 様

### 8.来賓紹介

### 9.生徒代表先生

生徒会長 瀧澤 佳彦



瀧澤生徒会長による宣誓

### 10.翠樹斉唱

### 11.閉式の辞

実行委員会副委員長 永尾 俊弘

### 記念講演会



当日は記念式典に先立ち、「国歌の品格」の著者でもある藤原正彦先生（お茶の水女子大学理学部数学科教授）をお招きし、「21世紀を担う君たちへ」と題した記念講演会が行なわれた。講演では「情緒力」の大切さが述べられ、いかにして「情緒力」を涵養するかについてご講演いただいたが、今後、高崎高校の新たな伝統を築いていく現役の生徒諸君にとっても大変有意義な内容であり、今回の講演を糧に文武両道にさらに励んでもらえることを期待したい。

同窓会  
だより

高高五六会

生方 將夫

昭和32年3月卒業の我々56期生も今年3月で卒業して50年が過ぎました。「光陰矢の如し」、今更のように歳月の流れの速さをしみじみと感じております。卒業時には328名の同期生も現在では判明しているだけでも44名が逝去しています。我々は昭和46年2月に「宇喜代」に於いて32名の出席で第1回の同期会を開催し「高々五六会」と称することを決め以来毎年1回の総会を開催し今年で第36回となりました。

和51年鯉のぼりを、55年には着用できる鯉兜を又新年総会の当番幹事を務めた昭和62年にはふたたび校章入りの大きな鯉のぼりとラグビーグラウンドの南にアルミポールを設置し母校に寄贈しました。

平成10年には還暦記念として、今年には卒業50年記念として共に5月、水上温泉「水上館」にて盛大に開催しました。参加者は67名と61名で大変楽しく、有意義な集いであったと好評でした。又昭和53年からゴルフ旅行会を始めました。毎年1回県内、県外の温泉地等へ20名から30名ぐらゐの有志で出掛けて懇親を深めており今年で29回を数えています。五六会は昭

昭和56年の選抜高校野球の折りには中野敏宗元校長が鯉兜を着て甲子園のアルフスタンドで応援しその様子はNHKテレビのニュースで取り上げられましたし、翠巒祭では高崎駅から高々までの行列にも鯉兜姿で先頭に立ちました。又毎年新学期の頃には大きな鯉のぼりが護国神社の新緑をバックに泳ぐ様は高々に相応しい雄々しく清々しい風景だと思いが如何だろうか。

昨年は五六会の原浩一郎君が同窓会長に就任しました。我々にとっても大変名誉なことであり、原会長のリーダーシップの下、同窓会の更なる発展が望めるものと大きな期待をしています。来年は我々も70才、古希の年を迎えます。これからも五六会の灯を消す事なく末永く継続して行きたいと思っています。母校高々と同窓会の限りない発展を心より祈るものである。

翠巒よ、永遠なれ  
（高々五六会代表幹事

マジヨール代表 56期）



第36回高々56会（卒業50年記念）平成19年5月12日 於 水上温泉水上館



同窓会だより2

同窓会だより2

藤岡翠鸞会が誕生しました

梅澤 徹 (藤岡翠鸞会事務局担当)



平成19年6月に藤岡翠鸞会が誕生しました。始まりは、私が理事長を務める特別養護老人ホームの関係者に高同窓生が多数居て、

会議等で集まるうちに、藤岡に高同窓会を作りたいという機運が生まれてきたことです。藤岡にも多くの同窓生がいるのだから、何か繋がりを持てれば素晴らしいよね、と気楽な気持ちからでした。

丁度その頃4月の統一地方選に藤岡市在住の高々の同窓生としては初めて県議選に1名、市議選に2名が立候補しました。同窓生として応援しようという事になり、その過程で核が大きくなり輪が広がっていききました。幸い2名が当選を果たしました。

今後はそういう事とは関係なく「藤岡翠鸞会」を発足させようという準備を始め、まず案内を送りました。90期35歳迄の全日制、定時制、通信制の同窓生610名に案内したところ、予想をはるかに上回る

120名の申し込みがありました。中には「現在遠くに住んでいるけれども帰郷も兼ねて参加したい」とか、「待ち望んでいた、こんな

老人でも入れてもらえるか」など、とても熱い反応がありました。当地にも旧制中学があり、戦後になっても高崎へ進学する人は少なかったのです。59期の先輩くらいから徐々に高崎高校に通う人達が増え始めましたが、まだ少数派です。そんな中での発足でしたので予想以上の反響を生んだのかも知れません。

6月23日の設立総会は会員65名の出席と原同窓会長、若山本部長、高他(神田) 禮子元職員様の同席を得て盛大に行われ、会長に56期・井田仁二氏、顧問に52期・清章司氏を選び、正式発足しました。

会場では、お互い街で会っても挨拶を交わす事の無かった人たちが同窓の誼ですっかり打ち解けて

話はずみ、交友の輪の広がる場がつくれて良かったとの思いを改めて強く持つことが出来ました。

会の最後に応援団OBのリードで、校歌・級会の歌・応援歌翠鸞を一同大きなひとつの円になって歌うことができました。実はみんなこれが歌いたかったのです。

今後の活動は6月に年次総会を藤岡出身の高高新入生歓迎会と併せて行い、12月には定例会として恩師や会員を講師にしての講演会を行う予定です。会には老・壮・青の幹事を配し、時に幹事会の輪を拡大し話題も広げ、杯を傾け合える楽しみもできました。今後は91期以後にも順次案内を差し上げ、回を重ねることに充実させ、母校や藤岡市の発展にも少しは寄与できればと欲張った希望も持っています。

(社会福祉法人 潤青会理事長65期)



同窓会本部から

◇会員名簿刊行される

「会員名簿」が5月に発行となりました。昨年春から期別幹事への同期生の消息調査依頼でスタートし、夏には会員の皆様へ調査カードを送付、さらには広告掲載のお願い等々につき多大なご協力、ご配慮をいただき誠に有難うございました。

名簿作成には細心の注意をはらい正確を期したつもりですが、もし誤記にお気付きの場合は、お手数ですが同窓会事務局までお知らせいただければ幸いです。原票を訂正し、次回発行に役立てたいと思います。

「会員名簿」は原則として予約販売で既に予約者へ発送済みですが、残部が少々ありますので購入ご希望の方は同窓会事務局へご連絡下さい。ただし購入の際には本人を証明するものの提示をお願いいたしますのでご承知の上ご用意下さい。次回の「会員名簿」刊行は平成24年です。それまで本同窓会による「会員名簿」の刊行予定はありませんので、類似の名簿発行事業の勧誘には十分ご注意ください。

◇訃報

秋池宗一郎氏 59才(65期) 8月23日逝去

前同窓会本部幹事、常任理事。翠巒体育会副会長、翠巒育英会評議員を歴任。永年に恒り同窓会活動に尽力されました。(医) 社団竹幸会理事。

原 一雄氏 95才(29期) 9月5日逝去

同窓会顧問、元会長。創立90周年事業実行委員長。翠巒育英会初代理事長。元全国米穀商組合連合会会長他幾多の要職を歴任。

県歌人クラブ会長、高崎哲学堂理事長、吉野秀雄顕彰会会長のほか、上毛新聞文芸欄「上毛歌壇」の選者を務めました。

原株式会社(グループ各社)取締役名誉会長。  
謹んでご冥福をお祈り致します。

◇翠巒セミナー

●第1回(通算55回) 平成19年9月22日(土)

①「海外(米国・英国・アジア)

での体験談…挫折と勇氣。」

②香港の中国返還10年後を

検証する。

加納 國雄 氏(62期)

香港政府観光局・

日本・韓国地区局長

◇本部活動報告

1月12日(金) 第1回本部幹事会

◇ 20日(土) 第1回常任理事会

◇ 27日(土) 第105回同窓会総会

3月19日(月) 第3回110周年記念事業実行委員会

◇ 26日(月) 第2回本部幹事会

4月23日(月) 第2回常任理事会

第1回理事会

5月9日(水) 110周年記念事業各担当者打合

◇ 13日(日) ゴルフ大会

◇ 15日(火) 会員名簿発行

◇ 20日(日) 110周年記念事業講演会、式典、祝賀会

8月28日(火) 第3回本部幹事会

9月22日(土) 第3回常任理事会

11月26日(月) 第2回理事会



卒業生の作品紹介 22



大木 紀元  
 (国造学園大学)  
 芸術学部長・教授  
 58期



『私の作品』  
 私のブルーノ・  
 タウト賞「副賞」

ナチスに追われて来日したブルーノ・タウトは、1934年8月1日から1936年10月1日まで高崎に滞在し、地域のデザイン振興指導と日本の美と文化の素晴らしさを後世に伝えた。

1938年10月8日、トルコの大学からの招聘で高崎を去ったが、別れの宴席では自分の骨は高崎に埋めて欲しいと言ひ残した。

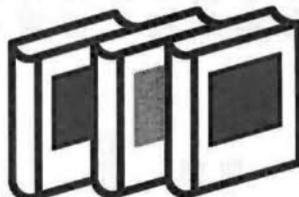
その日からちょうど70年目にあたる昨年、タウトの顕彰活動を続ける「ブルーノ・タウトの会」では、滞日中

の逃避生活とその不朽の文化活動とを暖かく支援した多くの方々の遺徳と、タウトの報恩の情を継承し「ブルーノ・タウト賞」を創立。今なお地域の文化・芸術振興の支援を続ける有徳の士を表彰し後人の鏡鑑となすものとした。

その副賞として制作されたのがタウトの出世作「鉄の記念塔」と「グラスハウス」をキャップに冠した万年筆（タウト1913）とボールペン（タウト1914）である。価額は168,000円、限定販売。製造発売は高崎の島田製作所（TEL027-322-5526）。

翠

～すいらんぶんこ～  
 戀文庫  
 BOOK



平成18年10月1日～  
 平成19年9月30日

●著書

- 前文から読み解く日本国憲法
- プラネット・インディア [インド・エキゾ音楽紀行]
- 戦争・人間・読書  
 ーともに学んだ高校生と教師であるあなたへー
- 群馬の福祉ー社会救済の視点からー
- ARUJUNA アルジュナ No.1
- 天祐山 仁叟寺誌

●作者

- 一倉 重美津 (50期)
- サラーム海上 (海上卓也) (84期)
- 吉永 哲郎 (54期)
- 杉山 了 (50期)
- 大木 紀元 (58期)
- 松本 和夫 (58期)
- 渡辺 啓司 (68期)

◆翠戀文庫について◆

翠戀文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

平成十九年度 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

- |     |                  |             |
|-----|------------------|-------------|
| 〈秋〉 | 瑞宝小綬賞 (地方自治功勞)   | 入沢 哲夫 (50期) |
|     | 旭日双光賞 (中小企業振興功勞) | 松倉 重昭 (43期) |
|     | 瑞宝双光章 (更生保護功勞)   | 高橋 哲夫 (49期) |
|     | 瑞宝双光章 (更生保護功勞)   | 松本 源治 (定8期) |
|     | 藍綬褒章             | 小泉 信 (54期)  |

(注) もし漏れがありましたら、恐縮ですがご連絡ください。

# 母校だより

## ■各部の活躍・活動

### 和太鼓部から

高崎高校和太鼓部「漢組（おとこぐみ）」は、一昨年に同好会として発足し、昨年度に部として認められた、まだまだ歴史の浅い部活動です。  
しかし、「全国高等学校総合文化祭」（郷土芸能部門）に、群馬県代表として2年連続で出場するなどの成績をおさめています。



また、今年の秋には「群馬県高等学校総合文化祭」で優秀な成績をおさめ、来年本県で開催される「第32回全国高等学校総合文化祭（ぐんま総文）」の代表に内定しました。

このような成績がおさめられたのは、顧問の三浦先生や、県からのバックアップがあり、翠濤会館という練習場所があるからだと思います。

和太鼓部は3年生が抜けてから、練習時間を毎週月曜日と木曜日の週2回から、日曜日以外のほぼ毎日の練習に切り替えて、全国優勝を目標に頑張っています。3年生が抜けたことによりまだまだ頼りない部分もありますが、来年には全国の猛者たちと張り合えるレベルにまで腕前を上げたいと思っています。

来年の「全国高等学校総合文化祭」は、群馬県で開催されます。そこで良い成績をおさめ、「高崎高校に漢組あり」といわれるような団体になれるよう、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

## SPORTS

### 運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

### 空手道部

#### ③個人形

- 金井良介 予選敗退  
小池 樹 ブロック3位  
個人組手  
金井良介 1回戦敗退  
佐藤義広 2回戦敗退  
高瀬雄斗 1回戦敗退  
松本康平 3回戦敗退

#### 団体組手

#### ④個人形

- 1回戦 高崎4-1館林  
2回戦 高崎4-1下仁田  
3回戦 高崎0-5商大附  
個人組手  
金井良介 予選敗退  
高瀬雄斗 予選敗退  
1回戦 高崎1-4伊勢崎  
小池 樹 1回戦敗退  
松本康平 1回戦敗退  
佐藤義広 3回戦敗退  
高瀬雄斗 1回戦敗退

#### 団体組手

#### ⑥個人形

- 1回戦 高崎4-1渋川工  
2回戦 高崎3-2伊勢崎  
3回戦 高崎0-5高工(ベスト8)  
個人組手  
金井良介 予選敗退  
高瀬雄斗 予選敗退  
高瀬雄斗 1回戦敗退  
佐野慎也 1回戦敗退

- ⑦1・2年生大会  
団体組手 1回戦 高崎2-3伊勢崎商  
個人形 小池 樹 4位(59人中)

#### 個人組手

- 三浦修平 予選敗退  
高瀬雄斗 2回戦敗退  
佐藤義広 4回戦敗退  
矢島知樹 3回戦敗退  
松本康平 2回戦敗退

### 剣道部

- ①1回戦 高崎4-0桐生商  
2回戦 高崎1-1沼田(代表戦負け)  
③2回戦 高崎4-1明和県央  
3回戦 高崎1-2前橋(ベスト16)

### 弓道部

- ⑦西毛地区大会  
個人 元村俊樹 5位

### 硬式野球部

- 春季関東地区高等学校野球大会群馬県予選  
2回戦 高崎0-9関学大附属  
○全国高等学校野球選手権群馬大会  
2回戦 高崎6-3嬉恋  
3回戦 高崎1-3藤岡工業  
○秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選  
2回戦 高崎9-2安中総合  
3回戦 高崎12-4大泉  
4回戦 高崎1-8中央(ベスト16)

### サッカー部

- ①2回戦 高崎8-1桐生工  
3回戦 高崎3-1太工  
4回戦 高崎2-1常磐

- 準々決勝 高崎0-5桐一(ベスト8)
- ③2回戦 高崎5-0桐生南
- 3回戦 高崎0-1沼田
- ⑥1部リーグ 2位

### 山岳部

- ①団体 第9位

### 柔道部

- ①団体 ベスト8
- 個人 池田貴紀 優勝
- 狩野竜郎 準優勝
- ②団体 出場
- 個人 池田貴紀 出場
- 狩野竜郎 出場
- ③団体 ベスト8
- 個人 池田貴紀 (81kg級) 優勝
- 狩野竜郎 (81kg級) 3位
- ④個人 池田貴紀 (81kg級) 出場

### 水泳部

- ③個人 小林郁也 二百m背泳ぎ 5位
- ⑥個人 小林郁也 百m背泳ぎ 2位
- 五十m背泳ぎ 1位
- 高橋直樹 百m自由形 5位
- 団体
- 四島ステレオリレー(小林・西野・塚越・高橋) 1位
- 二百mリレー(西野・小林・高橋・大河原) 3位
- 四百mリレー(大河原・西野・高橋・塚越) 3位

### ソフトテニス部

- ①団体 2回戦 高崎3-0前橋南
- 3回戦 高崎2-0吉井
- 4回戦 高崎1-2高商(ベスト8)
- 個人
- 折田・樋口組 ベスト16
- 須藤・佐藤組 ベスト16
- ②個人 折田・樋口組 3回戦進出
- 須藤・佐藤組 1回戦敗退
- ③団体 2回戦 高崎3-0桐生工
- 3回戦 高崎2-1市立伊勢崎
- 4回戦 高崎2-1沼田
- 準決勝 高崎0-2農大二(第3位)
- 個人
- 小堺・樋口組 優勝
- 須藤・佐藤組 ベスト8
- ④個人 小堺・樋口組 2回戦進出
- ⑥団体 2回戦 高崎3-0西邑楽
- 3回戦 高崎2-0利根商
- 4回戦 高崎0-2前橋(ベスト8)
- 個人
- 小堺・樋口組 ベスト16
- 須藤・喜古組 ベスト16
- 折田・剣持組 ベスト16

### 卓球部

- ①シングルス 浦上竜太郎 ベスト64
- 団体 1回戦 高崎3-2育英
- 2回戦 高崎3-0太工
- 3回戦 高崎0-3樹徳(ベスト16)
- ③団体 1回戦 高崎3-1高崎商
- 2回戦 高崎3-0大泉
- 3回戦 高崎2-3利根商(ベスト16)
- ⑥団体 1回戦 高崎3-0健大高崎
- 2回戦 高崎3-0農二
- 3回戦 高崎2-3前橋東(ベスト16)
- ⑦県強化大会
- シングルス 浦上竜太郎 ベスト64

### 軟式野球部

- ①1回戦 高崎4-3育英
- 準々決勝 高崎3-7高崎商(ベスト8)
- ⑦夏季大会
- 1回戦 高崎0-1桐生
- 秋季大会
- 1回戦 高崎11-4館林
- 準々決勝 高崎1-8農大二(ベスト8)

### バドミントン部

- ①個人
- ダブルス 戸井田・木村組 ベスト16
- 団体 1回戦 高崎1-2富岡実
- ③2回戦 高崎3-2中央
- 3回戦 高崎0-3西邑楽
- ⑦高校生バドミントン大会
- 根岸 ベスト16

### バレーボール部

- ①4回戦 高崎2-0勢多農
- 準々決勝 高崎1-2高崎北
- ③4回戦 高崎2-1桐生
- 準々決勝 高崎0-2伊勢崎
- ⑦西毛地区大会
- 2回戦 高崎2-0農二
- 準決勝 高崎0-2高崎北(第3位)

### ラグビー部

- ①1回戦 高崎22-7前橋東
- 2回戦 高崎17-12樹徳
- 準決勝 高崎0-45明和県央
- 3位決定戦 高崎22-10太田(ベスト4)

### 陸上競技部

- ③全国高校ラグビー大会県予選
- 準々決勝 高崎17-19樹徳(ベスト8)

- ①小林 幹 二百m 4位
- 加倉敬太郎 百十mH 3位
- 土屋貴弘 三千mSC 1位
- 松田貴之 走高跳 3位
- 齋藤駿介 やり投 5位
- 黒澤太郎 やり投 6位
- 八種競技 1位
- 四×百mリレー(黒澤・加倉・小林・齋藤) 5位
- 男子総合成績 5位
- ②小林 幹 二百m 組4位
- 加倉敬太郎 百十mH 途中転倒
- 土屋貴弘 三千mSC 9位
- 松田貴之 走高跳 15位
- 齋藤駿介 やり投 7位
- 黒澤太郎 やり投 16位
- 八種競技 2位
- 四×百mリレー(小林・加倉・高濱・大井田) 組8位
- ④黒澤太郎 八種競技 20位
- ⑥小林 幹 二百m 1位
- 二百m 3位
- 関 祐輔 千五百m 1位
- 五千m 1位
- 和田尉吹 五千m 2位
- 黒澤太郎 やり投 3位
- 四×百mリレー(黒澤・馬場・小林・久留) 6位
- ⑦群馬県陸上競技選手権大会兼団体予選
- 関 祐輔 千五百m 5位
- 土屋貴弘 三千mSC 3位
- 関東陸上競技選手権大会
- 関 祐輔 千五百m 組11位
- 土屋貴弘 三千mSC 組7位
- 学校対抗
- 小林 幹 二百m 5位

関 祐輔 八百m 5位  
 千五百m 8位  
 中山隆雄 八百m 6位  
 千五百m 6位  
 土屋貴弘 三千mSC 1位  
 三千mSC 6位  
 和田尉吹 五千m 6位  
 加倉敬太郎 百十mH 3位  
 森田真基 三千mSC 8位  
 松田貴之 走高跳 4位  
 鈴木良太 ハンマー投 6位  
 黒澤太郎 やり投 3位  
 齋藤駿介 やり投 4位  
 男子一部 総合5位

### スキー・スケート部

①大回転 4位  
 回転 3位  
 ②大回転 2位  
 ④ジャイアントスラローム 31位  
 スラローム 24位  
 ⑤ジャイアントスラローム 失格

### テニス部

①個人  
 ダブルス 仁平・鈴木組 ベスト16  
 団体 ベスト16  
 ③個人  
 ダブルス 仁平・鈴木組 ベスト16  
 団体 ベスト16

### バスケット部

①1回戦 高崎78-43沼田  
 2回戦 高崎101-34高崎工

3回戦 高崎113-25高崎経附  
 準々決勝 高崎95-77高崎商  
 準決勝 高崎62-75樹徳(第3位)  
 ③2回戦 高崎129-21万場  
 3回戦 高崎105-29中之条  
 4回戦 高崎114-59館林  
 準々決勝 高崎69-52太田工  
 準決勝 高崎76-85樹徳(第3位)  
 ⑤神戸澤信彦・阿久澤一輝・道下一樹の3名が  
 2回戦 群馬83-63鳥取  
 3回戦 群馬55-120秋田(ベスト16)  
 ⑦平成19年度全国高等学校選抜優勝大会  
 2次予選  
 準々決勝 高崎66-77高崎商(第5位)



### 学芸部

#### 将棋・囲碁部

○囲碁

○全国高等学校囲碁選手権群馬県大会  
 個人 青山英樹 優勝  
 団体(青山英樹、牧野康隆、  
 内田貴大) 優勝



○全国高等学校囲碁選手権  
 個人 青山英樹 参加  
 団体(青山英樹、牧野康隆、  
 内田貴大) 参加  
 ○将棋  
 ○全国高等学校将棋選手権群馬県大会  
 個人 戸塚大介 3位  
 団体(吉田、河野、近藤) 3位  
 ○全国高等学校将棋竜王戦県予選  
 戸塚大介 ベスト8

### 映画研究部

○第54回NHK杯全国高校放送コンテスト  
 群馬県大会  
 創作テレビドラマ部門 優秀賞  
 (全国大会出場)

### 新聞部

○第21回群馬県高校新聞コンクール  
 県議会議長賞  
 ○第11回全国高等学校新聞年間紙面審査  
 優良賞

### 吹奏楽部

○第30回県アンサンブルコンテスト 銀賞  
 ○第10回県ソロコンテスト  
 羽深 智 金賞  
 ○第48回県吹奏楽コンクール A組 銅賞

### 文芸部

○第2回群馬県高校生文学賞

(文芸誌部門)  
 「高博文藝」優良賞(2年連続入賞)  
 ○第22回全国高等学校文芸コンクール  
 (文芸誌部門) 出品

### 和太鼓同好会

○第31年全国高等学校総合文化祭  
 総合開会式及び郷土芸能部門大会出場  
 韓国派遣(群馬県合同メンバー  
 として8名参加)

### 合唱部

○群馬県高等学校総合文化祭  
 (第32回全国高等学校総合文化祭プレ大  
 会)  
 オペラ部会 歌劇「みづち」合唱団参加

### 鉄道研究部

○ジオラマ展示(総合文化祭)

### マンドリン部

○群馬県ギター・マンドリンコンクール  
 優良賞



# 第61回定期戦

今年の定期戦において、我々は過去十数年間続いていたジンクスを破ることに成功した。今回の勝利は、高高の団結なくしては得ることができなかったものであることは言うまでもない。

第61回定期戦では、前哨戦では部対抗陸上は勝利したが、お家芸である水泳で1勝2敗と負け越し、硬式野球、軟式野球ともに健闘むなしく敗北し、高高9点前高18点と大きく負け越した。しかし、この9点という大差が高高生の闘志に火をつけた。

勝利を得るため日々練習に練習を重ね、とうとうやってきた本戦。長い間続いていたジンクスを破るべく意気昂揚の高高生。ホームが勝利するというジンクスを守ろうとする前高生。互いに負けることのできない大勝負を前にして、両校共に気合十分であった。一般対抗、部対抗各々熱い火花を散らした。どちらが勝ってもおかしくない戦いを繰り広げたが、高高が2点差で勝利を得た。

方を組み高生全員で歌った校歌、敵地前高で踊った富士の白雪すべてが高高生の青春の1ページとして刻まれたことだろう。

長い間続いていたジンクス。これは伝統の積み重ねであると同時に、歴史の停滞でもあると考えていた。今回の定期戦の勝利により、高高、前高両校の間に新しい風を吹かすことができたことに喜びを感じる。歴史は再び動き出した。高高の勝利の歴史を後輩たちが積み重ねていくことができることだろう。

第61回定期戦実行委員長 駒井 源之丞

## 進路状況 (全日制) ( )内は現役

大学	17年	18年	18年	大学	17年	18年	19年
北大	6(4)	9(7)	8(5)	慶應大	100(84)	73(66)	48(33)
東北大	30(25)	42(38)	29(27)	早稲田大	108(78)	67(57)	60(47)
筑波大	11(9)	6(6)	7(7)	中央大	121(101)	104(100)	79(73)
千葉大	12(10)	6(5)	6(5)	明治大	87(68)	114(105)	105(94)
群馬大	40(37)	22(20)	42(37)	上智大	7(3)	6(5)	4(1)
(医)	8(6)	5(4)	6(5)	立教大	33(22)	11(11)	21(16)
埼玉大	5(5)	11(11)	10(9)	学習院大	4(2)	1(1)	3(2)
東京大	14(13)	13(11)	12(7)	青山学院大	29(23)	14(14)	9(5)
一橋大	7(6)	4(4)	1(1)	法政大	37(30)	26(24)	21(18)
東工大	9(8)	3(3)	6(4)	日本大	78(67)	80(70)	95(73)
横国大	5(5)	5(3)	6(6)	東京理科大	130(108)	159(145)	148(137)
新潟大	12(12)	17(15)	18(17)	芝浦工業大	38(31)	59(58)	94(90)
金沢大	8(7)	8(7)	6(6)	同志社大	5(5)	1(1)	1(0)
信州大	2(2)	3(3)	5(5)	立命館大	52(47)	7(6)	18(17)
名古屋大	1(1)	1(1)	2(2)				
京都大	8(8)	3(2)	2(2)	高経大	9(9)	8(7)	5(5)

## 第60回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
対角線	対角線	水泳	3	6
		駅伝	6	3
		綱引き	6	3
		玉入れ	6	3
		ソフトボール	6	3
		長縄	6	0
		卓球	5	4
		陸上競技	6	3
		ソフトテニス	3	6
		バレーボール	1	8
		バスケットボール	7	2
		柔道		
		剣道		
弓道				
空手道				
サッカー				
ラグビー				
硬式野球				
軟式野球				
テニス				
36	48	小計	55	41
91	高高	総合	前高	89

## 人事異動 (平成19年度)

### 退任者・転出者

- 校長 栗原 健 退職
- 教頭 田中 勇一 松井田高 校長
- 国語 松本 正志 前橋東高
- 数 小林 政幸 沼田高
- 理 科 森島 健一 新田高
- 公 民 大須賀誠一 前橋工業高
- 英 語 山田 樞 藤岡中央高
- 英 語 天野 正明 高校教育指導専事
- 家 庭 三木 保江 退職
- 地理歴史公民 藤木 重利 中之条高
- 保健体育 船戸 渉 退職
- 公 仕 長 矢島 明彦 退職
- 通信制教頭 箕輪 明 前橋女子高 副校長
- 通信制教頭 高木 道子 退職
- 通信制教頭 代田 和年 退職
- 通信制教頭 小船 浩二 高崎高等養護学校

### 新任者

- 校長 藤倉 新一 高校教育課長
- 副校長 松原 真介 藤岡高 教頭
- 教頭 増田 芳之 境高 教頭
- 国語 岡田 準 前橋西高
- 数 学 手島 直樹 新採用
- 理 科 清水 哲郎 前橋女子高
- 公 民 澤田 徳彦 前橋南高
- 英 語 矢島 宏三 中央高
- 英 語 新井 悟 前橋南高
- 家 庭 曾根由美子 高崎東高
- 保健体育 村田 英之 吉井高
- 公 仕(主幹) 梶井 豊 みやま養護学校
- 通信制教頭 田村 浩一 高崎東高
- 通信制教頭 亀島 和彦 高崎工業高
- 通信制教頭 真下 和彦 中之条高

# 高高同窓会 予算決算報告

平成18年度 通常会計 (平成18年1月1日～平成18年12月31日)			
収入の部			
費目	平成18年度予算	平成18年度実収入	備 考
前年度からの繰越金	760,533	760,533	
入 会 金	3,000,000	3,156,000	
維持会費	6,000,000	7,028,840	2,496人
利 息	67	190	
雑 収 入	10,000	475,500	百年史会計より繰入ほか
合 計	9,770,600	11,425,063	

支出の部			
費目	平成18年度予算	平成18年度実支出	備 考
会 議 費	1,000,000	984,860	理事会補助、新年総会準備金ほか
祝 賀 費	800,000	699,540	叙勲記念、卒業九箇ほか
饗 別 費	300,000	140,000	17年度離任職員
慶 弔 費	200,000	71,315	葬儀供花代ほか
通信印刷費	420,000	347,585	維持会費納入礼状、電話代、郵送料ほか
旅 費	100,000	100,000	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	1,673,814	
同窓会報費	1,000,000	937,411	
事 務 費	1,500,000	1,363,321	事務職員人件費、事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	54,012	文前代
補 助 費	1,100,000	1,100,000	図書館、早稲田体育会、ヒューマンサイエンス
環境整備費	500,000	189,000	指月庭維持管理費ほか
雑 費	300,000	239,590	維持会費振込手数料、維持会費戻しほか
予 備 費	350,600	0	
合 計	9,770,600	7,900,448	

差引残高 3,524,815円 (特別会計積立 300万円 次年度繰越金524,815円)

## 特別会計積立

収入の部		支出の部	
前年度からの繰越金	15,217,115		
平成17年度通常会計より	2,000,000		
利 息	5,744		
合 計	17,222,859		
な し			
差引残高	17,222,859円		

平成19年度 通常会計予算案 (平成19年1月1日～平成19年12月31日)				
収入の部				
費目	平成19年度予算	前年度予算	増 Δ減	備 考
前年度からの繰越金	524,615	760,533	Δ235,918	
入 会 金	3,100,000	3,000,000	100,000	
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	85	67	18	
雑 収 入	10,000	10,000	0	
合 計	9,634,700	9,770,600	Δ135,900	

支出の部				
費目	平成19年度予算	前年度予算	増 Δ減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	800,000	0	
饗 別 費	300,000	300,000	0	
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	
旅 費	100,000	100,000	0	東京同窓会
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	
補 助 費	1,100,000	1,100,000	0	図書館・早稲田体育会・ヒューマンサイエンス
環境整備費	500,000	500,000	0	
雑 費	300,000	300,000	0	
予 備 費	214,700	350,600	Δ135,900	
合 計	9,634,700	9,770,600	Δ135,900	

## 特別会計積立

収入の部		支出の部	
前年度からの繰越金	17,222,859		
平成18年度通常会計より	3,000,000		
利 息	141		
合 計	20,223,000		
		3,100,000円	(創立110年記念事業補助金として)

## 第106回高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回の新年総会は、私達77期が担当させて頂いたこととなり、心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますので、ご期待ください。

同日の方々、先輩後輩の方々、お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

期日 平成20年1月26日(土)  
時間 午後3時より  
場所 高崎ビューホテル  
会費 5000円  
(当番期77期代表 松本 基志)

## ○維持会費の納入について

平成20年度の維持会費の納入をお願いいたします。納入については、同封の振込取扱票(加入者名一群馬県立高崎高等学校同窓会)もお使いいただけますが、ATMのご利用をお願いいたします。

## ■編集後記

同窓の皆様のご協力をいただき、会報第41号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、まことにありがとうございました。(本部幹事会)